

あいらの歴史と物語

歩き・み・ふれる歴史の道 “建昌城探検！”

始良市教育委員会 社会教育課 文化財係 深野 信之

建昌城跡は、九州自動車道桜島SA北側にある標高100m程度の台地上に立地します。この台地上には、約10万㎡の平坦地が広がり、東側の約7万㎡に中世の山城跡(曲輪・空堀など)が良く残り、平成22年に鹿児島県史跡に指定されました。

建昌城は、今から約550年前の享徳年間(1452～1455年)に豊州家島津氏の初代である島津季久が築いた山城で、当初の城の名前は「瓜生野城」です。

次に城の名前が文献に現れるのは、島津義弘が息子の島津忠恒(後の家久)に出した慶長5年(1600)の手紙です。この中では、忠恒が瓜生野城を本城候補(領内の中心)と考えていることに対して、義弘が反対しました。しかし、忠恒は鹿児島(鶴丸)城の建設を進めながらも建昌城へこだわっていたようで、元和元年(1615)幕府巡検使に建昌城への移転願を提出しましたが、却下されています。この時、「建昌城」という名前が初めて文献に登場しました。

市教育委員会では、このように豊かな歴史をもつ建昌城跡の一般公開を目的に史跡地の防草化事業の取り組み、令和5年度で主要な曲輪の防草化が完了したため、5月25日(土)に建昌城跡を起点・終点とした史跡めぐりを実施しました。

24名の参加者は、5月末とは思えない暑さの中、麓の森山・楠元地区の史跡を訪ねる約5.5kmの道のりを歩いた後、最後の難所で今回の目玉である大文字池からの登山に挑戦しました。ロープを使って急坂を踏破し、城の中央を東西に貫く馬乗り馬場の東端にたどりつきましたが、この時には全員の息が上がり、城を攻め落とす元気は残っていないようでした。建昌城攻略の難しさを体感していただけたのではと思います。



西南戦争の関ヶ原～「高瀬の会戦」と加治木三番小隊

竹之内 茂

「西南戦争」が勃発して、令和9年（2027）で150年の節目を迎えます。

明治10年（1877）2月14日、加治木出身者で編成された六番大隊は熊本に向けて出発しました。西郷隆盛率いる本隊は、同22日熊本城総攻撃を開始しましたが城は陥落せず、薩軍は南下してくる政府軍を食い止めるため北上し、同25日玉名郡高瀬で政府軍と交戦しました。そのため、山鹿方面に進軍する予定で植木にいた加治木隊（第二・三・四小隊）約500名は、翌日玉名に向かいました。



加治木隊が、細い谷間の道を通り抜

け、視界が開けた場所に出たところ、待ち伏せしていた政府軍の小倉第14連隊（乃木希典指揮）の一斉射撃を受け、多くの死傷者を出してしまいました。

加治木三番小隊の16名の負傷者たちは、身を隠して下村高城の台地で薩軍が来るのを待っていましたが、通り過ぎるのは政府軍のみだったため、自身の生還の望みを失い、もはやこれまでと切腹自決しました。

兵士たちの遺体は、高瀬の嶋津太郎作たちにより、嶋津家の畑に手厚く埋葬され、常安寺での法要も執り行われました。翌年、集団自決した兵士の遺骨は加治木の遺族に引き取られましたが、一人の遺骨が身元不明のまま嶋津家の墓地に残されていたところ、平成9年、玉名市の郷土史研究家の調査により、120年ぶりに身元が判明しました。



加治木郷土館での「玉名遺産を活かす会」メンバー

それ以来、加治木の子孫たちは玉名への墓参りを続けているそうです。

先日、「玉名遺産を活かす会」のメンバーの方々が、西南戦争の史跡を訪ねて始良市を訪問され、歴史民俗資料館や紹隆寺跡の招魂石などを見学されました。

加治木と玉名の子孫の交流は今も続いています。

「始良市誌刊行記念展示会」

始良市歴史民俗資料館館長 下鶴 弘

始良市歴史民俗資料館では、市誌編さん事業の完了に合わせて「始良市誌刊行記念展示会」を5月17日（金）から7月15日（月）まで開催しました（展示資料36点）。市誌編さん事業では、令和6年2月に最後の「始良市誌 第3巻 近代・現代・民俗編」が刊行され、全7巻（通史編3巻と別巻4巻）がそろったこととなります。既刊の通史編2冊は、「始良市誌 第1巻 先史・古代編 自然編」と「始良市誌 第2巻 中世・近世編」です。別巻4冊は、「始良市誌別巻1 絵図・地図・空中写真」、「始良市誌別巻2 碑文・近代史料・自然資料」、「始良市誌別巻3 新聞記事（明治・大正編）」、「始良市誌別巻4 新聞記事（昭和前半）」です。始良市歴史民俗資料館の窓口で販売していますので、ぜひ手に取ってみてください。



展示風景「明治・大正・昭和の旧3町議会議事録」

「ふるさとチャレンジャー」から学んだこと

宮内 伸一

第1回 AIRA ふるさとチャレンジャーが6月29日（土）に開催されました。

今回は「ふるさと発見ウォークラリー」の中で蒲生ふるさと交流館周辺の史跡案内を1時間程度とする計画でした。4～6年生が対象で30名の参加があり、2コースに分けて案内する予定でした。

しかし、当日は雨天のため、現地での史跡案内はできませんでした。そこで、事前に準備していたスライドをもとに史跡の紹介を行いました。

スライドでの紹介の前に、班ごとにクイズ形式で、史跡について楽しく調べる活動をしたので、ある程度は理解しても

らえたようでしたが、現地で案内をするようにはいきませんでした。

まだ小学生の段階では、スライド等による史跡の説明は難しいと思うと同時に実際に見ながら案内することの大切さを、改めて痛感することでした。



文化財係の異動について

社会教育課 文化財係 塘 裕樹

今年4月から、人事異動により文化財係に配属となりました^{とも}塘と申します。

これまで市の歴史や文化財に触れる機会が少なく、配属されてから日々、知らなかった始良市の歴史の奥深さ、文化財の多さに驚嘆の思いであり、前部署で現場に行き来する際に何気なく目にしていたものが文化財だったということも多く、再発見を楽しく勉強しています。



文化財業務は屋内外に関わらず多くの業務があり、自然の中を自分の足に^{はっば}発破をかけながら進むような時もありますが、深く文化財に携わることのできるという貴重な経験に大きなやりがいを感じています。

職員としてまだまだ半人前ですが、一日も早く貢献できるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

「Instagram」開始のお知らせ

前田 聡子

令和6年度より、正式に始良歴史ボランティア協会の公式Instagramを始めました。アカウント名は、「aira_no_rekishi」です。

私たちの活動を柱に、始良市内に数多く残る史跡や、面白いイベントの紹介など、幅広い内容で発信しています。楽しんでいただけたら、うれしいです。ぜひチェック、そしてフォローをお願いします。右のQRコードをご利用ください。



QRコード

編集後記

歴史ボランティア協会の広報誌49号をお届けします。毎年の定例ガイドに加え、最近小学生向けのガイドも増えてきました。始良市に新たに移住してこられた方々にも、始良の歴史を知っていただく機会がもっとあるといいなあと思う今日この頃。今年から新たにInstagramを始めました。少しずつですが、協会の活動を知っていただけたらと思います。

迫村 あけみ